

「第 114 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 5 年 3 月 2 日（木） 14 時 30 分
都庁第一本庁舎 8 階 災害対策本部室

【総務局理事】

それでは第 114 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。
本日も感染症の専門家の先生方にご出席をいただいております。

東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボードのメンバーで、東京都医師会副会長の猪口先生。

同じく戦略ボードのメンバーで、国立国際医療研究センター国際感染症センター長の
大曲先生。

東京 iCDC からは、所長の賀来先生。

そして、医療体制戦略監の上田先生にご出席をいただいております。

よろしく願いをいたします。

それでは議事に入って参ります。

まず、「感染状況・医療提供体制の分析」の報告です。

「感染状況」につきまして、大曲先生よろしく願いをいたします。

【大曲先生】

それでは、ご報告をいたします。

感染の状況でございますが、総括としては、色は「黄色」であります。「感染状況の推移に注意が必要である」といたしました。

感染の状況ですが、改善の傾向が続いております。感染の機会を減らすためには、定期的な換気、3 密の回避、適切なマスクの着用、そして手指衛生などの基本的な感染防止対策を継続する必要がある、といたしました。

それでは、詳細に移って参ります。

①です。

新規の陽性者数でございます。この 7 日間平均であります。前回の 1 日当たり 1,145 人から、今回 1 日当たり約 867 人に減少をしております。今週先週比は約 76% であります。

新規陽性者数の 7 日間平均は、7 週間連続して減少しております。今週先週比も 100% を下回って推移しております。感染の状況は改善の傾向が続いております。

感染の機会を減らすためには、人の集まる屋内では、定期的な換気を励行するとともに、3 密の回避、場面に応じた適切なマスクの着用、手指衛生などの基本的な感染防止対策を継続する必要があります。

また、国は、3月13日より、屋内外を問わず、マスクの着用を個人の判断にゆだねることとしました。なお、医療機関の受診時、そして医療機関・高齢者施設等への訪問時などにおいては、院内や施設内での感染拡大を防止するために、引き続きマスクの着用を周知する必要があります。

都が実施していますゲノム解析によりますと、BA.5系統の割合が約31%まで低下する一方で、オミクロン株の亜系統である「BQ.1.1系統」、「BF.7系統」及び「BN.1系統」などへの置き換わりが進んでおります。今後の検出状況を注視する必要があります。

また、インフルエンザであります。都内では、流行注意報が発出中であり。新型コロナウイルス感染症とともに流行の状況を注視する必要があります。

オミクロン株対応ワクチンの接種率です。2月28日の時点で、65歳以上では74.5%ありますが、全人口では41.1%、12歳以上としますと45.2%であります。オミクロン株対応ワクチンは、重症化の予防効果とともに、感染の予防効果そして発症の予防効果も期待できます。引き続きワクチンの接種を呼びかける必要があります。また、これまでに小児の重症者も報告されております。小児の接種も進める必要がございます。

次、①-2に移って参ります。

年代別の構成比でございます。新規の陽性者の中に占める割合であります。30代が16.3%と最も高く、次いで40代が16.1%であります。20代から50代の若年層、そして中年層が依然として高い割合を示しています。引き続きその動向を注視する必要があります。

次、①-3であります。

新規の陽性者の中に占める65歳以上の高齢者数であります。先週の1,356人から、今週は946人に減少しております。また、新規陽性者数の7日間平均であります。前回の1日当たり約158人から、今回は1日当たり135人と減少をしました。

新規陽性者の中に占める65歳以上の高齢者数は減少傾向が続いておりますが、高齢者は感染によって、既存の疾患の悪化、そして誤嚥性肺炎を招く可能性があります。そして、重症化のリスクも高いことから、施設の管理者は面会の実施に当たって、面会者にマスクの着用を求めるなど、引き続き適切な感染防止対策を講じる必要があります。

次、①-5であります。

新規陽性者数の7日間平均が第7波と第8波の間で最も少なかった日が、これ10月11日ありますが、ここを起点としまして、2月19日までに都に報告があった新規の集団発生の事例の数であります。福祉施設が2,098件、学校・教育施設が71件、医療機関は343件ございました。

このように、今週も複数の医療機関、そして高齢者施設等で施設内感染の発生が報告されています。従事者や入院患者及び入所者は、基本的な感染防止対策を継続する必要があります。都では、施設を対象として、直接相談を受ける専用の窓口を設置して、感染の発生の有無を問わず、感染対策の相談や、現地の指導に幅広く対応しています。今の時期に対応をしておくことをお勧めしたいと思います。

次、①-6であります。

都内の医療機関から報告された新規陽性者数の保健所区域別の分布を見ております。これを人口 10 万人当たりで見えています。そうしますと、色の濃いところが高いわけですが、右側にありまして、区部の中心部からの報告数が多い傾向が見られております。

次、②です。

#7119 における発熱等の相談件数であります。この 7 日間平均であります。前回は 1 日当たり 60.6 件、今回は 1 日当たり 66.6 件であります。また、小児の発熱等相談件数の 7 日間平均を見ますと、前回は 1 日当たり 25.3 件、今回は 1 日当たり 27.1 件であります。

また、都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均でございますが、前回は 1 日当たり約 495 件、今回は 1 日当たり約 534 件になりました。

このように、発熱の相談件数に関しては今回やや増加しています。今後の動向を注視する必要があります。発熱などの症状が出た場合には、24 時間相談を受け付ける発熱相談センター、そして小児救急電話相談 #8000 を活用することを、引き続き周知する必要があります。

次は③です。

検査の陽性率であります。行政検査における 7 日間平均の PCR 検査等の陽性率であります。前回は 6.3%、今回は 5.5%と低下をしました。また、7 日間平均で見た検査等の人数であります。前回は 1 日当たり約 11,187 人、今回は 1 日当たり 9,768 人になりました。

検査の陽性率は、継続して低下する傾向にあります。一方で、報告に表れない感染者が潜在している可能性もありまして、注意が必要でございます。

私からは以上でございます。

【総務局理事】

ありがとうございました。

続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生よろしくお願いたします。

【猪口先生】

はい。では、医療提供体制について報告します。

総括コメントの色は今週も「黄」、「通常の医療との両立が可能な状況である」といたしました。

入院患者数は減少傾向が続き、約 8 か月ぶりに 1,000 人を下回りました。医療機関では、新型コロナウイルス感染症のための病床を通常医療用の病床に振り替えるなど、柔軟な病床運用を行っている、といたしました。

個別のコメントに移ります。

この表は、オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析シートです。個別のコメントと重複しますので、後ほどご覧になってください。

④救急医療の東京ルールの適用件数です。

東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の1日当たり140.0件から122.9件に減少いたしました。

東京ルールの適用件数の7日間平均は減少したものの、高い値で推移しております。救急医療の現場では、院内感染対策として、救急外来でのウイルス検査や個室での一時受入れが必要となっており、一般救急を含めた救急医療体制への影響が残っております。

救急搬送において、救急患者の搬送先決定に時間を要しており、救急車の現場到着から病院到着までの時間は改善傾向にあります。新型コロナウイルス感染症流行前の水準と比べると依然として延伸しております。

⑤入院患者数です。

入院患者数は、前回の1,065人から802人に減少いたしました。

入院患者のうち酸素投与が必要な患者数は、前回の225人から185人となり、入院患者に占める割合は23.1%でした。

今週新たに入院した患者数は、先週の368人から306人となり、また、入院率は4.7%でした。

都は、病床確保レベルをレベル1の5,100床としており、新型コロナウイルス感染症のために確保を要請した病床の使用率は、前回の20.3%から15.1%となっております。また、即応病床数は3,737床で、即応病床数に対する病床使用率は21.5%となっております。

減少傾向が続いている入院患者数は、約8か月ぶりに1,000人を下回り、通常医療との両立が可能な状況になってきております。医療機関では、病床使用率や救急医療体制の状況などに応じて、新型コロナウイルス感染症のための病床を通常医療用の病床に振り替えるなど、柔軟な病床運用を一生懸命行っております。

入院調整本部への調整依頼件数は、3月1日時点で11件となっております。

⑤-2です。

入院患者の年代別割合は、80代が最も多く全体の約33%を占め、次いで70代が約21%で、60代以上の高齢者の割合は約82%と高い値のまま推移しております。

高齢者の中には、介護度の高い患者や重度の併存症を有する患者も含まれており、今後の動向を注視する必要があります。また、都内においては、高齢者等医療支援型施設8か所を設置し、高齢者の療養体制を確保しております。

⑤-3です。

3月1日時点で、検査陽性者の全療養者のうち、入院患者数は、前回は1,065人でしたが802人に、宿泊療養者数は223人から173人となりました。自宅療養者等の人数は5,095人、全療養者数は6,070人であります。

発生届対象外の患者は、東京都陽性者登録センターに登録することで、「My HER-SYS」による健康観察や食料品等の配送など、療養生活のサポートが受けられることを引き続き都民に周知する必要があります。

都は、感染状況を踏まえ、21 か所、8,093 室、受入可能数 5,844 室の宿泊療養施設を確保し、運営しております。

⑥重症患者数です。

重症患者数は、前回の 10 人から 13 人となり、年代別内訳は、10 歳未満が 1 人、20 代 1 人、30 代 1 人、50 代 1 人、60 代 2 人、70 代 6 人、80 代 1 人であります。性別は男性が 9 人で、女性が 4 人でした。また、ECMO を使用している患者は 2 人です。

人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合は 0.04%でした。

今週、新たに人工呼吸器又は ECMO を装着した患者が 8 人、離脱した患者が 7 人、使用中に死亡された患者さんが 1 人であります。

今週報告された死亡者数は 68 人で、30 代が 1 人、50 代 3 人、60 代 3 人、70 代 13 人、80 代 29 人、90 代 19 人でありました。3 月 1 日時点で累計の死亡者数は 7,978 人となっております。

救命救急センター内の重症者用病床使用率は、前回の 76.9%から 74.2%となっております。

新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株が主流となって以降、重症患者の割合や致死率の低下が示されております。高齢者における重症患者の割合が他の年代に比べ高い傾向は変わらないものの、これまでに、小児であっても重症化する患者が一定数存在しており、あらゆる年代が重症化するリスクを有していることに注意が必要であります。

救命救急センター内の重症者用病床使用率が依然として高い水準で推移する中、医療機関では通常医療とのバランスを保ちながら、柔軟な病床運用を行っております。

⑥-2 です。

オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は、前回の 41 人から 30 人となりました。

オミクロン株の特性を踏まえた重症患者 30 人のうち、人工呼吸器又は ECMO を使用している患者が 13 人、ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者が 15 人、その他の患者が 2 人であります。

オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、前回の 10.5%から 7.7%となっております。

オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は減少傾向が続いており、病床使用率も 10%を下回って推移しております。

今週新たに人工呼吸器又は ECMO を装着した患者は 8 人であり、新規重症患者数の 7 日平均は、前回の 1 日当たり 0.7 人から 1.1 人となっております。

私の方からは以上であります。

【総務局理事】

ありがとうございました。

ただいまご両名からいただきました分析報告の内容につきまして、何かご質問等ござい

ますでしょうか。

よろしければ「都の対応について」に移ります。

ご報告のある方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは次に、東京 iCDC からの報告に移ります。

賀来所長から分析報告についてのコメント、「都内主要繁華街における滞留人口のモニタリング」及び「変異株の状況」についてのご報告をお願いいたします。

【賀来所長】

はい。まず、「分析報告」についてコメントを、続いて、「繁華街滞留人口モニタリング」、「変異株」について報告をさせていただきます。

まず、分析報告へのコメントです。

ただいま、大曲先生、猪口先生より、感染状況、医療提供体制についてご発言がございました。

感染状況と医療提供体制は、ともに「黄色」。

感染状況では改善傾向が続き、医療提供体制では、入院患者数が約 8 か月ぶりに 1,000 人を下回ったとのこと。

新規陽性者数の発生を抑えていくためにも、基本的な感染防止対策により、感染の機会を減らしていくことが重要です。

続きまして、繁華街滞留人口のモニタリングについてコメントさせていただきます。西田先生の資料をもとにご説明をさせていただきます。

次のスライドをお願いします。

今回の分析の要点です。

レジャー目的の夜間滞留人口は、前週に引き続きまして、ほぼ横ばいで推移しております。

それでは個別のデータについて説明をいたします。

次のスライドをお願いします。

青色の線で推移が示されている 18 時から 24 時までの夜間滞留人口は、前の週と比べ 2.9%減少と、ほぼ横ばいで推移しております。

コロナ流行後、初めて緊急事態宣言や重点措置の無い 1 月、2 月でしたが、昨年末の高い水準を超えることなく、一定程度低い水準で推移しております。

次のスライドをお願いします。

資料の上段は紫色の線が 20 時から 22 時、水色の線が 22 時から 24 時の夜間滞留人口の推移を示したグラフです。

資料下段の実効再生産数の値ですが、直近 7 日間の平均では 0.77 と低いところで横ばいで推移しております。

引き続き、換気を含め、基本的な感染対策を継続することが重要です。

滞留人口の説明は以上となります。

続きまして、変異株について報告をさせていただきます。

こちらのスライドは、ゲノム解析結果の推移について、直近 6 週間の動きを示したものです。

1月31日から2月6日の週と、2月7日から13日の週を比較いたしますと、BA.5系統の割合が35.8%から31.2%に減少している一方で、BA.5の亜系統であるBF.7系統が18.0%から19.6%に、BA.2.75系統の亜系統であるBN.1系統が16.9%から19.3%に増加するなど、新たな亜系統が全体的に増加しています。米国を中心に報告されているXBB.1.5系統についても、1.3%から2.5%に増加しております。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、過去1年間のゲノム解析結果の推移です。

2月における解析結果ですが、1月と比較して、BA.5系統が減少している一方で、BN.1系統、BQ.1.1系統、BF.7系統といったオミクロン株の新たな亜系統の割合が増加しております。

次の資料をお願いします。

こちらは先ほどのグラフの内訳です。

BN.1系統が前回から149件増えて5,814件、BF.7系統が164件増えて7,533件、BQ.1.1系統が159件増えて8,593件、XBB.1.5系統が15件増えて106件となっています。

次のスライドをお願いします。

こちらは、オミクロン株亜系統に対応した変異株PCR検査の結果について、変異株の置き換えの推移を比較したグラフです。

都内では、紫色でお示ししているBF.7系統が28.6%と最も多く、赤色のBA.5系統が23.8%、オレンジ色のBQ.1.1系統が19.0%、水色のBN.1系統が14.3%、XBB.1.5系統が4.8%と、BA.5系統から新たな亜系統への置き換えが進んでおります。

ただし、この値は新規陽性者数の減少に伴い、検査数が減少していることから、数値の解釈には注意が必要となります。

次のスライドをお願いします。

こちらは、先ほどのグラフの内訳です。非常に小さな数字ではありますが、2月14日から20日までの週で、BA.2.75系統が1件、BN.1系統が3件、BA.5系統が5件、BF.7系統が6件、BQ.1.1系統が4件、XBB.1.5系統が1件確認されております。

東京iCDCでは、引き続き、陽性者の検体のゲノム解析や変異株PCR検査を実施し、動向を監視して参りたいと思います。

私からの報告は以上となります。

【総務局理事】

ありがとうございました。

ただいまの賀来所長からのご報告等につきまして、何かご質問等ございますでしょうか。

よろしければ、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【知事】

はい。先生方、ありがとうございます。

感染状況・医療提供体制ともに先週と変わらず、「黄色」が灯っております。

そして、先生方からのご報告では、まず、感染状況は改善傾向が続いている、入院患者数は減少傾向が続いて約8ヶ月ぶりに1,000人を切ったとのご報告いただきました。

そして、5月8日に予定されております、5類に移ってから以降の医療提供体制について、「東京モデル」として実施をしてきた取り組みを継続しつつ、段階的に移行を進めていきます。

そして、感染対策についても、都民への呼びかけを丁寧に行って参りたい。それぞれ取り組んでいただきます。

そして、サステナブルリカバリーの実現に向けて、引き続き、ともに頑張る参りましょう。

ご苦勞様でございます。

以上です。

【総務局理事】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第114回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

なお次回の会議日程は別途お知らせをいたします。

ご出席どうもありがとうございました。